行間20pt

行間15pt

行間32pt

１０行分にバランスよく配置すること

タイトルはここに

－副題がある場合はここに－

English Title:

English Subtitle

食　めぐみ1・農　栄子2・資源　保3\*

Megumi SHOKU Eiko NOU Tamotsu SHIGEN

1．大見出し（MSゴシック，12pt　※(B)ボールドにしない(以下同様)）

文章をここに流し込んでください。

和文フォントはＭＳ明朝の10.5pt，半角英数字フォントはTimes New Romanの11pt

　句読点は「，」と「。」

ページ設定はA4，46文字×39行，余白は上26mm，下26mm，右23mm，左23mmです。

　ヘッダーとフッターには，ページ番号を含め，何も記入しないで下さい。

　その他，執筆は，食農資源経済論集執筆要領に従って作成して下さい。

\*\*\* PDFによる投稿の際のご注意 \*\*\*

通常，PDF設定は初期設定で「標準」となっています。その場合、特殊文字等が、ファイルを開くパソコンによっては文字化けするおそれがあります。必ず，フォントの埋め込みができる「高品質」設定でPDFに変換するようお願いします。

下の文字枠に，所属，責任著者のEメールアドレス，5つ以内のキーワードを記入してください（ＭＳ明朝，10pt）。1ページ目に流し込む文章の行数が多いと，下の文字枠が2ページ目に移動してしまいますので，1ページ目の文章を適切な分量で改行し，改めて，2ページ目から文章を流し込むようにして下さい。

1食大学農学研究院生物資源環境科学科　　　2農大学農学部　　　3資源研究センター

\*Corresponding author: shigen@research.go.jp

Key Words：食料，農業，地域資源，農村，ビジネス

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・。

《大見出しの前は一行空白》

2．大見出し（MSゴシック，12pt）

（1）中見出し（MSゴシック，11pt）

・・・・・・・・・・中見出しの前には行間を空けずに本文を書いて下さい。

（2）中見出し（MSゴシック，11pt）

１）小見出し（MS明朝，10.5pt）

　・・・・・・・・・・・

図表のタイトルはMSゴシックの12ptで統一して下さい。また，図表下の註と出所は，「註：」「資料：」と表記したうえで註を先に記載し，MS明朝の9ptで統一して下さい。註が複数ある場合は，図1の例に従って記載して下さい。

表1　△△△（MSゴシック，12pt）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| □□□ | ○○○ | ××× |
|  |  |  |
|  |  |  |

註：・・・・・・・・・・・・・・。（MS明朝，9pt）

資料：・・・・・・・・・・・・・。

W

V

X

Y

Z

A

B

図1　△△△

註：1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

　　2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

資料：・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

図表と本文の区別が明確になるよう，図表と本文の間に適切な余白を挿入して下さい。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

《一行空白》

註（MSゴシック，11pt）

１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・註の文章は，2文字分のぶら下げ設定を行って下さい。

２）

10）

11）

《一行空白》

付記（MSゴシック，11pt；任意）

・・・・・・・・・・・・・・。

《一行空白》

引用文献（MSゴシック，11pt）　※Family nameのアルファベット順に記載して下さい。

有本寛・中嶋晋作・富田康治(2014)「区画の交換による農地の団地化は可能か？－シミュレーションによるアプローチ－」『農業経済研究』86(3)：193-206．http://doi.org/10.11472/nokei.86.193.

Berogman, T. E. and W. K. Destwanger (2005) The Role of Information in Applied Consumption Analysis, in A. K. Weisman, ed., *Economics of Consumer Behavior*, London: White University Press, 111-133.

Geode, C. and T. R. Kompson (1983) *Applied Production Economics: Theory and Application*, New York: APOT Press.

川島丈太郎(2006)『戦前期日本の食糧政策』民政出版．

Kunimitsu, Y., T. Iizumi, and M. Yokozawa (2013) Is Long-term Climate Change Beneficial or Harmful for Rice Total Factor Productivity in Japan: Evidence from a Panel Data Analysis, *Paddy and Water Environment* 12(2): 213-225. http://doi.org/10.1007/s10333-013-0368-0.

Maru, T. (2016) How Social Customs Restrict EU Accession Effects on Female Labor Participation in Agricultural Production in Rural Adana, Turkey: A Simulation Analysis, *Japanese Journal of Rural Economics* 18(1): 17-31. http://doi.org/10.18480/jjre.18.17.

Mobarak, A. M. and Rosenzweig, M. (2012) Selling formal insurance to the informally insured, Yale University Economics Department Working Paper No. 97, New Haven: Department of Economics, Yale University. https://ssrn.com/abstract=2009528.

農林水産省(2008)「食料自給率の部屋」，http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/index.html（2009年12月1日参照）．

食太郎・農次郎(2021)「日本の環境保全型農業直接支払交付金の政策評価―農業センサスを用いたパネルデータ分析」『食農資源経済論集』（近刊）

Shoku, T. and J. Nou (2021) An Policy Evaluation of Japanese Direct Payment for Environmentally Friendly Farming: Panel Data Analysis with Agricultural Census, *Japanese Journal of Food, Agricultural and Resource Economics* (forthcoming).

島田晴彦(2002)「アグリビジネス分析の視点と方法」持田直弘・南太郎編著『アグリビジネスの計量分析』農業大学出版会：3-15．

高橋大輔(2011)「日本の食品関連産業による海外進出と撤退の動向」『2011 年度日本 農業経済学会論文集』：134-141．

U.S. Department of Agriculture (2014) Agricultural Act of 2014: Highlights and Implications, http://www.ers.usda.gov/agricultural-act-of-2014-highlights-and-implications.html (accessed on October 1, 2014).

マックス・ウエーバー(1989)『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（大塚久雄訳）岩波書店．

山下一仁(2009) 環境と貿易の経済分析，RIETI Discussion Paper Series 09-J-028，東京： 独立行政法人経済産業研究所，https://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/09j028.pdf.

※同一著者の文献が複数ある場合は刊行の古い順で示し，同一著者同一年である場合は（2021a）(2021b)とする。著者が複数の時には著者名を「・」ないし「and」でつなぐ。和文では全角のコンマ「，」と全角のピリオド「．」を用い，半角のコンマと半角のピリオドは使用しない(但し、URLは除く)。

※本文中での文献の引用は，著者の姓の後に刊行年（西暦）をカッコ付きで続ける。著者が2名の時は著者の姓を「・」ないし「and」でつなげ，3名以上の時は筆頭著者の姓のみを明記し。第2著者以降は「ら」ないし「et al.」として省略する。

　例：…である（島田，2002：p.12）。また, 有本ら（2014）によれば「・・・」である。

《一行空白》

Abstract （Arial, 12pt）

　Abstract in English. (Times New Roman, 11pt)

※本テンプレートに関するご不明の点については，学会事務局にお問い合わせください。